想作天文学〔XII〕

一つの目撃事件

19×× 年．アメリカはカリフォルニア大のウィーバーたちは星の誕生の領域といわれる HII 領域の近くに不思議な電波をみつけた．その数年まえに発見された水酸基（OH）の電波をさがしていた矢先である．周波数も OH のスペクトルである 1667，1665 MHz であった．

そのまた数年前，同じくアメリカのモリソンとコッコーニが，宇宙人からの通信の電波をさがそうという，いわゆる CETI の提案をして，オズマ計画の発端となったが，その時に主張した電波の性質として，1）スペクトル線の周波数，2）せまいバンド幅，3）強い偏波，4）電波源が小さい，5）時間変化がある，の 5 点があったが，この OH らしくてらしくない電波はまさにこの 5 つの性質をそなえているのである．

ベトナム戦争はますますはげしく，米ソ宇宙開発競争たけなわの 19×× 年である．CIA の大型コンピュータは総動員されてこの宇宙人らしくてらしくない電波の解読にあたった．

一つのコンピュータはあまりに高級な暗号のためにパンクしてしまった．もう一つのコンピュータは信号のあまりの無意味な長い列であふれてしまった．つまりこうである．

高級な暗号文をおもいうかべてもらいたい．一寸目にはまるっきりデタラメな文字列とうつるだろう．ほんとうにデタラメな電波（たとえば単純な自然現象）はこのコンピュータには限りなく高級な暗号にうつったにちがいない．

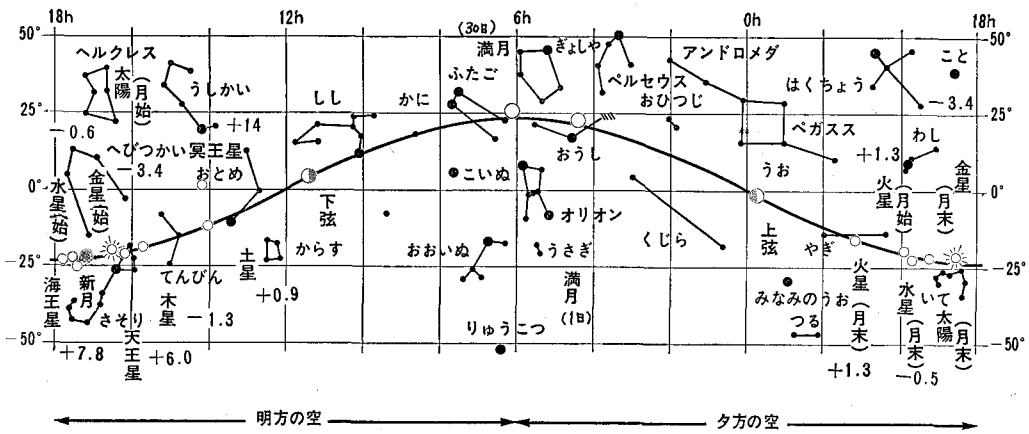
あんまりゆっくりしゃべる人の話はかえってわかりにくいものである．途中で話のはじまりを忘れてしまったり，脈絡がわからなくなったりする．OH らしくてらしくない，宇宙人らしくてらしくないこの電波の時間変化のタイムスケールが，バンド幅の逆数という感じでコンピュータの感じるタイムスケールの 1 億倍もゆっくりなのだ．バカ正直が取得のコンピュータでも退屈でダウンしてしまう．

結局，この電波は忘れ去られてしまった．ただ，天文学者だけは，この電波を OH からのものと信じ，OH メーザーなどと名付け原始星やら変光星の質量放出についての研究に使っているそうである．

どちらも本当だったのかもしれない．宇宙にすごくゆっくり鳴く，食用蛙と牛のあいの子みたいな動物がいて，体内の OH ガスを，原始星やら変光星の光でメーザーにして，人間がメーザーを発信と受信の両方に使うのとおなじようにして鳴き合いさえずり合いほえあっているのかもしれないのだ．

この文章は筆者が 15 年ほど昔ある雑誌に投稿した「オズの電波と暗黒星雲」という記事から翻案したものである．　　(MM)

◇ 12 月 の 天 文 暦 ◇

日	時	記	事
1	9	**望**	
2	20	月	最近
7	20	大　雪	（太陽黄経 255°）
8	1	**下　弦**	
15	18	**朔**	
18	11	月	最遠
19	9	海王星	合
22	14	冬　至	（太陽黄経 270°）
23	23	**上　弦**	
30	21	**望**	（皆既月食）
31	4	水　星	東方最大離角
31	7	月	最近

◇ 12月の日月惑星運行図 ◇